

令和5年度〔自己評価報告書〕

学校番号	学校名	校長名
103	川崎市立 百合丘小学校	堀井 英之

学校教育目標	今年度の重点目標
笑顔あふれる学校(自己肯定感・有用館) ・明るい子(自他を大切に、認め合い協力する、健康な子) ・よく考える子(課題に対して自ら考え、解決、行動する子) ・がんばる子(目標に向かって努力する子)	・教育力を高め、資質・能力の育成を図る ・主体性や自他を大切に認め合う心の、育成を図る ・安心・安全を守り、心身の健やかな育成を図る ・地域・保護者・教職員の連携を強め、地域愛の育成を図る

評価項目	具体的な取組	成果と課題	具体的な改善策
1 生きるために必要な資質・能力の育成を図る。 (確かな学力)	<ul style="list-style-type: none"> 主体的に学習に取り組む態度を養い、発達段階に応じた基礎的な知識・技能を習得させ、これらを活用して課題を解決する思考力・判断力・表現力を育む。 子どもが未来社会を生き、切り開くための資質・能力を育むために、カリキュラムマネジメントを充実させ、効果的な教育課程を編成する。 教師の授業力の向上を図り、主体的・対話的で深い学びの視点に立った分かる授業づくりを推進していく。 学びの質の向上を目指し、GIGAスクール構想の推進を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 子どもたちが意欲をもって主体的に活動できるような学習内容や課題を模索してきた。学習する手立てや手順を児童に考えさせたり任せられるところは委ねたりして発達段階に応じた内容で取り組んだ。主体的に学習に取り組む様子が見られた。 地域に根差した特色ある教育の構築に努めた。教科を関連させながらキャリア在り方生き方教育を推進した。 国語科の授業研究を行い、共通理解のもと授業改善に取り組んだ。指導法について理解を深めることができた。 低学年のうちからGIGA端末を活用した学習を行った。学年があがるに連れGIGA端末の扱いに慣れ、学習効果を感じられた。 各教科で育むべき資質・能力と具体的な目指す子どもの姿をより明確にしたい。 	<ul style="list-style-type: none"> 主体的・対話的で深い学びのある授業を目指す。児童自ら課題をもち、解決に向かい、振り返りを通して学びを実感できるよう学習内容の充実を図る。 地域を生かした特色あるカリキュラムの更なる構築に向け、研究を重ねていく。子どもたちが学習活動を通して、地域に愛着がもてるようにする。 児童および教職員のGIGA端末についてのスキルアップを図り、教科学習や学校生活全体における、より効果的な活用を目指す。 各教科における育むべき資質・能力の明確化とそれを育む教育内容の効果的な編成の継続を図る。(カリキュラムマネジメントの充実)
2 主体性や自他を大切に認め合う心の育成を図る (豊かな心)	<ul style="list-style-type: none"> 道徳科を要に教育活動全体を通して「私も大切・あなたも大切」を基本とした人権教育の推進を図る。 協働する活動を通して、相手の良さやよりよい人間関係について知るとともに、自分を振り返り自己肯定感や自己有用館をもてるようにする。 先輩が伝えてきた百合丘小学校の伝統や文化を大切にするとともに、百合丘小学校の一員としての意識と学校に対する愛着をもち、良い学校にしようとする気持ちを育む。 地域学習を通して、自分が育つ地域の良さを知り、地域に対する愛着をもつ。 いじめ防止基本方針に則っていじめの防止に努めるとともに、道徳および日常的な取り組みを通していじめは絶対にいけないという気持ちを育む。 	<ul style="list-style-type: none"> 共生・共育を確実に実施し、道徳教育の推進を図った。 また、学習においてグループでの活動を随時取り入れた。協力してやり遂げることにより自分や友だちのいいところに目を向けるようになり、お互いを認め合い大切にする意識や自己肯定感が高まった。 ヤマユリの栽培や「ゆりっこ合唱団」など、百合丘小学校に代々受け継がれてきた活動を今年度も実施した。子どもたちはその良さに触れることができた。反面、学校の伝統や文化ということについては、児童も教職員も明確なイメージを十分にもてていない面がある。 コロナの影響が無くなり、昨年度に比べ地域に出たり域協力者を招いたりしての学習を多く取り入れた。しかし、地域との関わりという点では未だ十分とは言えない。 道徳は勿論、日常的にいじめは絶対にいけない、という気持ちを育むよう努めた。事案が発生した際には教職員が情報を共有し組織で解決するよう図った。 	<ul style="list-style-type: none"> 学校教育目標に則り、児童の実態に応じた実質的な生活目標を設ける。児童自らが朝会や代表委員会等で発表や振り返りを行い、お互いに規範意識を高めていくようにする。 創立60周年に向けての副読本作成を機会として学校の伝統や文化を見直し、今の時代により相応しい活動として継承していく。 地域を生かした特色あるカリキュラムの構築に向け、引き続き研究を重ねていく。充実した学習活動を通して子どもたちが地域に愛着をもてるようにする。 いじめについてはアンケートや振り返りカードなどを通して実態を把握し、家庭とも連携を図って防止に努める。

3	<p>安全を心掛ける意義と健やかな体の育成を図る (健やかな体)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・体力向上に向け、体育科の単元構成を工夫し、同学年で共通理解を図って授業に取り組む。 ・きらきらタイムをはじめ休み時間に集会を計画するなどして、子どもたちが自ら健康な体を育もうとする態度を育てる。 ・食育を通して、栄養のバランスの取れた食事を心掛ける態度を養う。 ・本校の実態に応じた防災・防犯訓練の実施と安全教育・情報モラル教育の推進を図り「自分の体は自分で守る」という意識を育む。 	<ul style="list-style-type: none"> ・体育科においては学年で内容を共有したり合同にして複数の教員で指導したりする授業を行った。効果的、効率的に実施することができた。 ・きらきらタイムでは児童が計画した「縄跳び集会」等を実施した。学級ごとに計画を立てて練習するなど子どもたちが主体的に取り組む姿が見られた。 ・養護教諭や栄養士が専門的な立場からバランスの取れた食事を摂ることの大切さを説いた。栄養バランスを意識するようになった。便り等で家庭にも伝え食事等に生かせるようにした。 ・防災・防犯訓練を繰り返し実施して訓練の度に振り返りを行い改善した。児童も教職員もスムーズに動けるようになった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・引き続き、児童の発達段階に応じた適切な運動量を確保した体育学習となるような授業づくりを行う。 ・食物アレルギー対応の定期的な確認と確実な引継ぎを行う。 ・教職員の研修等を通して災害時対応について改善および共通理解を図る。避難所運営とも関連した緊急時対応マニュアルの作成・充実を図る。
4	<p>教職員及び保護者・地域との連携を強め教育効果を高める</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・全教職員が、児童の社会性の発達を目指し、一人一人の違いや個性を認め、受け入れ、実態に応じた支援や指導のできる温かい学校としての集団づくりを目指す。 ・支援教育コーディネーターを中心として、教育活動サポーター等も活用しながら組織的な対応を心掛け、教職員全員で支援教育を推進する。 ・子どものけが等、学校で何か起こった際には、管理職や養護教諭に報告し、保護者に対して迅速かつ丁寧な説明を心掛ける。 ・保護者からの連絡や相談があった際には、関係する教職員が情報を共有し、どの教職員も同じ意識で、保護者の気持ちに寄り添った対応を心掛ける。 ・コミュニティスクールとして、地域資源や地域協力者等を活用して教育効果を高め、地域に根差した特色ある教育を構築、推進する。 ・学校から発信して、保護者および地域に学校の教育活動について理解と支援を得られるよう努める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学年会などで児童一人一人について必要な情報を共有し理解に努めた。学校として一貫性をもって個に応じた指導ができるよう体制づくりに取り組んだ。 ・支援教育コーディネーターが中心となり、情報を共有することで担任や講師、サポーターとの連携が取りやすくなりチームとしてスムーズに対応できた。 ・児童にけが等があった際には直ちに応急措置を施し即保護者に連絡することを心掛けた。迅速かつ丁寧な説明、対応となるよう努めた。 ・保護者から学校や学年、学級に関わる問い合わせがあった際には、学年、あるいは管理職と内容を共有して個人の対応としないようにした。保護者の気持ちに寄り添った対応を心掛けた。 ・今年度から学校運営協議会を設けコミュニティスクールとなった。委員からは参観や児童との話し合いを通して学校教育についての具体的なご意見をいただいた。学校の伝統や文化の継承、学校施設の有効活用等についてのご提言をいただいた。 ・保護者によるボランティアの制度を設けた。学校環境の整備や児童の見守りなどをしていただいた。 ・学校の教育活動等については、学校だよりやホームページ等様々な方法で発信するよう努めた。内容の充実を更に図りたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・必要な情報を教職員が共有し組織的に対応できる体制の構築を図る。 ・情報を効率的に発信・共有するため、オンラインや配信について更に工夫していく。 ・地域に根差した特色ある学校の実現に向け、学校運営協議会でいただいたご意見やご提言を生かして取り組む。 ・ボランティアの方々や地域協力者の協力に感謝するとともに、学校だよりやホームページ等を活用して保護者や地域の方々の理解をいただき、更に多くの協力を得られるようにしていく。
5	<p>学校における働き方改革に関する取り組み</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・時間の有効活用と業務内容の精選を行う。 ・管理職として教職員の勤務時間を把握、管理し、助言する。 ・打合せ、会議等の精選と設定時間を工夫する。 ・勤務時間等、保護者や地域への周知を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・勤務時間に合わせたの電話対応、休憩時間の取得しやすい時間への変更、退勤予定時間の明示等を行った。時間の有効活用についての理解や認識が一層深まり、共有することができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・教職員の働き方改革について認識を深め共有するとともに、保護者や地域の方からの理解を得ていくようにする。 ・GIGA端末の活用による校務の更なる効率化を図る。

学校関係者の評価	学校運営のまとめ
<ul style="list-style-type: none"> • 一人一台の端末があることでリモート授業やスライドの作成・発表など今までになかった学びの機会が増えた。 • 交換授業はより多くの教員との関わりがもてるので良い取り組みだと感じる。 • 学校の予定をもっと早く知らせてほしい。 • 見守りを増やすなどして登下校の安全を確保してほしい。 • GIGA端末の持ち帰りは特に低学年の児童にとっては負担が大きい。 • 地域との連携や関わりがもっとあるといい。 • 児童指導の改善に努めてほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> • コロナによる規制が無くなり、学習指導要領に示された本来の教育活動が行えるようになった。国語科の校内研究を通して「主体的・対話的で深い学び」のある授業に向けて全教職員で取り組んだ。 • 学びの質の向上を目指しGIGAスクール構想の推進に努めた。 • 働き方改革の趣旨に則り教職員の負担軽減に努めた。 • 今年度、学校運営協議会を立ち上げてコミュニティスクールとなった。委員の方々から、よりよい学校運営についての貴重なご意見、ご提言をいただくことができた。 • 保護者の協力により保護者ボランティアを導入した。学校環境の整備や児童の見守り等でご協力いただいた。 • 授業の成立が困難な状況の学級があった。保護者の協力も得て、組織的な対応を図った。